

森 り よ う じ

森
が
動
く。



副議長

流山市議会議員

討議資料

6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害、8月の台風被害、そして9月には北海道胆振東部地震と立て続けに自然災害が発生しました。

被災された方々に、心から哀悼の意を表します。また一日も早い復旧復興と、被災された方々が日常生活に戻れるよう、お祈り致しております。

平成30年10-12月号 森りょうじレポート。(93号)

～ 皆さんと一緒に、森も動く。～

■山が動く。～子ども達の過重荷物問題～

1年以上を掛けて取り組んできた「児童・生徒の登下校時の過重荷物問題」。9月上旬、国（文部科学省）がようやく課題解決に向けた方針を出す旨の報道がなされました。またその後も流山市などの取り組みがテレビや新聞でも数多く報道されています。これは長い間、保護者の方々、近藤議員（流政会）や他自治体議員と共に声をあげてきた一つの成果だと感じています。

地方の時代…地域には様々な課題が山積していますが、これからは住民や地方議会（議員）が主体となって課題を解決していく責務が求められていると思います。

■人口急増の長所と短所…？（決算審査の所感）

今定例会は平成29年度決算審査を行いました。歳入では人口増に伴い個人市民税（以下全て前年度比2.9%増の127億円）や固定資産税（4.1%増の98億円）が伸びた分、地方交付税が減少する影響を受けました。歳出面でも人口増に伴う子育て支援策の充実や高齢化への対応で民生費が大きく伸び（6.1%増の238億円）、厳しい財政状況を感じる内容でした。（次号で特集予定）

■陳情・市民相談に応じています。※一部抜粋

- ①通学路（西初石）の安全対策や草刈り（富士見台ほか）
- ②既成団地の再活性化を目指すプロジェクトの立上げ

■お知らせ（議会・個人活動の予定）

- ①平成30年第4回定例会は11/29-12/19の予定です。
- ②会報94号は駅頭配布のみの扱いです（HPには掲載）

○1976年6月12日流山生まれ（42歳）

※サラリーマン家庭（父はNTTに勤務）で育つ
流山市立新川小、流山市立北部中卒業
日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社（管理部ほか）

○2003年4月 流山市議会議員に初当選（2,692票）

○2011年4月 流山市議会議員二期目当選（4,508票）

○2015年4月 流山市議会議員三期目当選（5,830票）

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

○後援会事務所：流山市中野久木559-2

討議資料

森が動く①

【第3回定例会の概要】

第3回定例会は議案25件を審査。個人的に注目した議案2件について報告したいと思います。

議案①：広告物条例の制定

京都や金沢などを訪れた際、感じることの一つに派手な看板やネオン、色彩豊かな建物が少なく景観に配慮した街並みが広がっている点があると思います。それは同時に“街の価値の高さ”を肌で感じている瞬間とも言えるかと思

います。おそらくそのような街には多くの方が住みたいと思うのではないのでしょうか。今定例会で上程された議案は、その



【落ち着いた色彩の商業施設】

ような街並みを目指すために屋内外の広告物などに関するルールを設ける条例でした。

審議の中では既設の看板設置者への影響について懸念の声がありましたが、最終的には可決されました。今後もT×沿線のまちづくりなどが進む上で当市の価値が更に高まるよう、条例が機能することを期待します。同時に進出企業にも理解と協力を求めていきたいと思

議案②：国民健康保険特別会計決算認定

今年度より所管の市民経済委員会には『後期高齢者医療特別会計』が審査対象として加わりましたが、今回は国保決算について報告します。

国保決算の概略としては歳入180億円に対し歳出は175億円に抑えることが出来たことで、**5.2億の黒字決算**となりました。ただし内容を見ると被保険者の減少や高齢化の課題は顕著であり、医療費の増大も続いています。決算は認定しましたが、今後も以下の点を注視しています。

- ① 被保険者数の減少と推移（団塊世代の方が後期高齢者医療制度への移行に伴う影響など）
- ② 口座振替の原則化による不納欠損額の抑制
- ③ ジェネリック医薬品の奨励や重複受診の見直しによる医療費支出の適正化
- ④ データヘルス計画（H28・H29）の評価と分析

WebSite「森りょうじ」を検索！
また Twitter・Facebook も更新中！

森が動く②

【市内の現場を、歩く。】

防災訓練の現場より

8月下旬に開催された流山市総合防災訓練に参加しました。我々市議会も防災服を着用し、当事者の一員として訓練に参加しています。

近年では、市内各自治会でも自主防災組織を立ち上げ、積極的に防災訓練に取り組む事例が増えています。先進的な取り組みを行う自治会では、防災功労者として内閣総理大臣から表彰を受ける地域まで出始めています。

一方、いくつかの自治会では参加者の固定化や、そのことによる訓練の効果に対するお悩みの声もいただいています。



【災害救助犬による訓練も定着】

ただし平時の今は個々人の対策に加え、各地域における独自の防災準備や市が勧める『避難所運営マニュアル』を策定できるかなどで、実際に災害が起こった際の被害規模も変わってくるとも言われています。全国各地で自然災害が多発している時だからこそ、改めて防災・減災について考える機会にしたいものです。

自治会館建替えの現場より

市内180自治会の内、自治会館を保有しているのは106自治会です。また地域によっては建設後30-50年が経過しており、近年では毎年のように各地域で建替え工事が行われています。

今夏に落成式を迎えた西初石地域の自治会も老朽化に伴う建替えでしたが、注目すべき点は自治会の財政負担を減らすために市内初となる等価交換方式という手法を用いた点には学ぶべきものがありました。



【機能性が高い新自治会館】

地域をどのようなカタチにしていくかは住民にとって大事なテーマです。その際に必要な地域ネットワークづくりの拠点になるのが自治会館です。会館を拠点とした新たなソーシャルキャピタルが生まれることを期待しています。

【連絡先】TEL & FAX: 7155-3236
Mail: ryoji612@peach.ocn.ne.jp